

重複障がいに関する かん

プロジェクトチーム

報告書記載者：小谷委員

運営会議の担当委員：小谷委員

令和元年度(平成31年度)の重点項目

- ・プロジェクト発足当初からの活動において、その効果と残された課題をまとめた「活動報告書」を作成する。
- ・残された課題について「重度心身障害者について協議の場」または引き継ぎ先等、終結の仕方を検討する。

活動概要

平成30年度 活動実績	<ul style="list-style-type: none">・第25回から第32回会議を開催<ul style="list-style-type: none">➢ M S Wと相談支援専門員対象の座談会を開催➢ 残された課題、引き継ぎ先等、終結の仕方を検討➢ 居宅介護事業所、訪問看護事業所アンケートについて検討・3月内に居宅介護事業所にアンケート実施
令和元年度 (平成31年度) 活動予定	<ul style="list-style-type: none">・訪問看護事業所にアンケート実施・居宅介護事業所・訪問看護事業所アンケート集計および結果を分析、 考察を行う・終結に向けて報告書を作成予定・重度心身障害者の協議の場についての意見集約

かだい がいよう
課題の概要

かだい がいよう 課題の概要	かだい 課題No.
重複障がい(肢体不自由・知的障がい)を持つ方の通所先や入居先が中々見つからない。 医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低く、なかなか受け入れてもらえない。 重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人を受け入れてくれる短期入所が少ない。	7
身体・知的の重複障がいがある方がグループホームを探していたが見つからない。また、利便性のある場所にない。	27
親と本人が在宅生活を維持できる短期入所が不足している。	28
医療型短期入所や医療型デイサービスの利用が必要な状態像だが重心判定がつかないために利用できない。	44
在宅重症心身障害児・者の支援体制の構築	52
在宅重症心身障害児・者の支援体制の構築	60

かだいかいけつ む ほこうこうせい
課題解決に向けた方向性

かだいかいけつ む ほこうこうせい 課題解決に向けた方向性	かだい 課題No.
M S Wと相談支援専門員対象の座談会を通して重複障がい児者の理解と病院と相談室の連携を図ることで、重複障がい児者(家族)が相談しやすい方向性にするために行う必要がある。	7、27、52、60、
地域で生活をしている重複障がい児者の受け入れ状況を居宅介護事業所・訪問看護に再度アンケートを行い、前回行ったアンケートと比較調査を行う。	60
未解決課題ややり残していることについて、重複障がい児者の地域生活の拠点となる場の整備、及び継続的に協議検討する場が必要としていることから今後の方向性について検討する。	7、27、28、44、52、60

かつどうきげん もくひょう
プロジェクトの活動期限とそれまでの目標

れいわ がんねん がつ へいせい ねん がつ
令和元年9月（平成31年9月）まで

- げんざい かつどう けいか せいかとう かつどうじっせきほうこうこくしょ さくせい
・現在まで活動してきた経過や成果等をまとめた活動実績報告書を作成する。
- みかいけつかだい た じゅうどしんしんしょう しゃ けいぞく きょうぎ で き ば そうせつとう
・未解決課題その他、重度心身障がい者について継続して協議が出来る場の創設等について提案できる内容の検討をする。

こうせいいん
構成員

しめい 氏名	しょぞく 所属
もりむら さとみ 守村 里美	ほっかいどう こ そごういりょう りょういく 北海道子ども総合医療・療育センター ちいきれんけいしつ ちいきれんけいか そだんしえんかりちょう 地域連携室 地域連携課 相談支援係 長
にしふ ひさと 西部 寿人	ほっかいどう こ そごういりょう りょういく 北海道子ども総合医療・療育センター リハビリテーション課 理学療法士
てらだ ゆうき 寺田 有紀	しゃかいふくしほうじんにれ かい はったつそだん さと 社会福祉法人楡の会 発達相談きらめきの里 さっぽろ そだんしえんせんせんもんいん 札幌 相談支援専門員
まつき ゆり 松木 由理	いりょうほうじんとうせいかい ほうもんかんこ 医療法人稻生会 訪問看護ステーションくま さんのかんごし さんの手 看護師
こたに せいこ 小谷 晴子（自立支援協議会副会長）	でいびーあいほっかいどう かいぎ いりょうたんとう D P I 北海道ブロック会議 医療担当
たなか こうへい 田中 耕平（西区地域部会）	じょうがいしゃちいきせいかつせん ホップ障害者地域生活支援センター
おおた ゆみこ 太田 由美子	ほっかいどうじゅうしょうしんしょうがいじ しゃ まも かい 北海道重症心身障害児（者）を守る会
たかだ ようこ 高田 洋子	
かたおか あいこ 片岡 愛子	
みかせ まゆ 御家瀬 真由	いりょうほうじんけいじんかい ていねけいじんかいびょういんかんじや 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院患者サポートセンター 看護師長（退院支援看護師）
たかなみ ちよこ 高波 千代子	いりょうほうじんとうせいかい 医療法人稻生会 じょうがいいりょう 生涯医療クリニックさっぽろ じむちょう 事務長
くぼた けんすけ 窪田 健介	そだんしつ そだんしえんせんせんもんいん 相談室みなみ 相談支援専門員
たけだ こうじ 武田 康治	そだんしつ そだんしえんせんせんもんいん 相談室ぽぽ 相談支援専門員
やまだ ゆきひろ 山田 幸広	そだんしつ そだんしえんせんせんもんいん 相談室あゆみ 相談支援専門員
つかもと こうへい 塚本 晃平	いりょうほうじんけいじんかい じょうざんけいびょういん 医療法人溪仁会 定山溪病院 ちいきれんけいしつ 地域連携室

ひさの まちこ
久野 真知子

だいがくいんせい
大学院生

※ 前回報告時（平成30年11月6日全体会）以降に変更があった構成員は氏名の後ろに
(新) と記載。

じ む きょく
事務局

☆札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課

☆さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

運営会議 (旧 まちの課題整理プロジェクトチーム) における
課題整理状況
(第32回 全体会 資料)

2019/5/21

分冊③

【重複障がいに関するプロジェクトチーム】

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例 れい 例	誰が何を困っているのか? ○○が○○ ○○という事例	○○という課題がある ○○が必要
7 (H24)	重複障がい（肢体不自由・知的障がい）をもつ方の通所先や入居先がなかなか見つからない。（東区7）	●障がい者施設・事業所のバリアフリー化を推進する。 ●現行の障害程度区分認定のしくみを見直す。 ●障がい程度区分認定調査員のスキルアップを図る。
27 (H25)	養護学校高等部。身障手帳1級、療育手帳A判定、夜間は呼吸が浅くなるので見守り必要。両親と兄と暮らす。父親は多忙。母親が入院中。兄が時間を作って本人の面倒を見たり、父親も仕事を抜けて面倒を見たりしているが、平日1週間など同じ事業所でロングショートさせてもらえる受け入れ先が自宅や近くで無い。（身体障がいがある児童を受け入れてもらえるショートも少ない）医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低いために現実的にはなかなか受け入れてもらえない。（相談9）	・じゅうしんはんていりょうようかいごつ。じょうたいぞう ・重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人のショートステイ受け入れ先が少ない。

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての見解	結果	カテゴリ
<p>誰が なに 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理】</p> <p>第6回まちの課題整理プロジェクトチームにて、重度の方を受け入れている事業所の調査や生活介護事業所等への聞き取り調査の必要性、重心を守る会による広報活動等を協議会を通じて広める等の話題が出た結果、第7回にて、札幌地区重症心身障害児（者）を守る会の太田副会長に話を聞く。まちの課題整理プロジェクトチームとしての見解は別添のとおり。</p> <p>⇒重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトを立ち上げて、現在上がっている課題から優先的に整理していく ⇒重複障がいに関するプロジェクトチームを設置</p>	<p>【東区との意見交換結果】 ・重心の方も（地域生活を？）求めている。社会人としてどう成長していくのか？ということを考えている。 ・障がいの重い人の大人モデルにシンボリストとっても有効ではないか。地域にたくさんおり、資源として活用して、協議会としても伝えて、 【参考】 ・平成30年度報酬改訂により、福祉型強化短期入所サービス費等を創設。</p>	<p>主：身体と知的の重複障害</p>
<p>※児童に関しては、平成30年度より、医療的ケア児とその家族を地域で支えられるようにするため、関係者による地域の課題や対応策について継続的に意見交換や情報共有を図ることを目的に、「札幌市医療的ケア児支援検討会」を設置。一部の課題については、この会議でも検討が行われる。事務局は自立支援協議会 子ども部会となっており、相談支援部会、子ども部会、重複障がいに関するプロジェクトチームから委員として参加している。</p>	<p>【重複障がいに関するPJについて】 ・2019年9月に一旦終了の予定。課題の継続的な検討は必要そのため、その後の課題検討の場について現在整理中。</p>	
<p>【課題整理】 7の見解と同じ</p>		<p>主：身体と知的の重複障害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか? ○○が○○ ○○という事例	○○という課題がある ○○が必要
28 (H25)	身体・知的の重複障がいがある方がケアホームを探している。南北線を利用して就労継続B型の事業所に通所している。足腰の安定が悪く、歩行時に転びやすいことから、駅までの道のりが安全なところを希望しているが、既存のケアホームには空きがないか、条件が悪くて安全を確保できない。(相談10)	ケアホームが不足していることと、利便性の良い場所にない。
44 (H26)	夜中の介護が頻繁に必要で、今まで寄宿舎を週3回利用して親の静養を確保してきた。親としては、在宅で介護してみたいと考えているものの睡眠が確保できる手立てが見通せないでいる。在宅サービスで、夜中のケアを利用できる家の構造ではなく、改修も困難。親と本人が、在宅生活を維持できる重心の事業所が不足している。(相談13)	重心の方が定期的に利用できる短期入所が少ない。
52 (H26)	0歳。人工呼吸器も24時間装着。退院後自宅で両親との生活を送る予定だが、知的発達レベルで重心の判定がつかないため、医療型の短期入所や医療型デイサービスが利用できない状況。状態像としては人工呼吸器もついているため、福祉型の利用は現実的には無理であり、結局母親が訪看やヘルパーと支えなければならぬ状況。3歳未満でもあり、ヘルパーの時間数決定についても十分に母親を手助けできるだけの時間数がつきづらい(最終的には区役所、本庁にて協議してもらってかなりの時間数を決定してもらったが苦肉の策)。 この他数件の事例が散見される。(相談21)	医療型短期入所や医療型デイサービスの利用が必要な状態像だが、重心判定がつかないために利用できな

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての見解	結果	カテゴリ
誰が なに 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
【課題整理済】⑦の見解と同じ		主：身体と 知的の重複 障害
【課題整理済】⑦の見解と同じ		主：身体と 知的の重複 障害
【課題整理済】⑦の見解と同じ	※児童に関しては、平成30年 度より、医療的ケア児とその 家族を地域で支えられるよう にするため、関係者による地 域の課題や対応策について継 続的に意見交換や情報共有を 図ることを目的に、「札幌市 医療的ケア児支援検討会」を 設置。一部の課題について は、この会議でも検討が行わ れる。事務局は自立支援協議 会 子ども部会となってお り、相談支援部会、子ども部 会、重複障がいに関するプロ ジェクトチームから委員とし て参加している。	主：身体と 知的の重複 障害

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか? ○○が○○ ○○という事例</p>	<p>○○という課題がある ○○が必要</p>
73 (H27)	<p>医療行為が必要な方の中活動や短期入所等の利用出来る施設が少ない。 ※家族の側からも本人に病識がないと在宅酸素の取り扱いや胃ろうをいじつてしまったり目が離せない。</p> <p>【現状の対処】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子世帯等は母の入院に合わせて本人も同じ病院に入院 在宅で家族やヘルパーの介助で生活しており外に出かけたりすることは諦めている 病識の無い方で睡眠中に取れたままにしてしまう方は母が夜は起きて付き添っている。 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師が配置されている事業所や対応できる事業所の情報共用有必要。 事業所が医療ケアを受ける心理的な抵抗感をなくすための研修が必要。 施設側の無理と思う気持ち（食わず嫌い？） 気軽に相談できる仕組みづくりが必要 看護的な知識がないなかで入ってきている 研修の充実一学びの場が必要 訪問看護の制度の壁一自宅だけではなく、日中活動先（短期入所）での訪問看護を認めることはできないのか（清田区） 	<p>【課題】医療ケアを必要とする方を受け入れてくれる事業所が少ない。</p> <p>【取組提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日中活動先での訪問看護の利用不可等の制度の壁を検討する 札幌市として医療行為についての研修会の実施（情報提供から実践報告まで幅広く）

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての見解	結果	カテゴリ
誰が なに 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、○○部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
【課題整理済】 7 の見解と同じ		主：身体と 知的の重複 障害

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか? ○○が○○ ○○という事例	○○という課題がある ○○が必要
60 (H26)	<p>①相談支援を利用する意義は理解できるが、実際には今すぐ利用するには距離がある</p> <p>②一つは、日常障がいが重い故に家族（実際には母親）以外に本人を理解できる人がいないと感じている</p> <p>③もうひとつは、実際に相談支援を利用した場合も相談員に理解してもらえてないと感じるられることが少ない</p> <p>④結果、相談支援を利用しなくなっていく</p> <p>⑤相談支援事業所相談員に感じる理解不足等は、ヘルパー、日中活動などの支援の他、訪問看護や保健師の中にも存在し、それらの結果、重症心身障がい児・者が利用できる資源は非常に限られているのが実情である</p> <p>⑥その他のことを含め、結果として母親がほとんど全てを担つており、様々なことを母親一人で決めなくてはならない状況にある</p> <p>⑦母親は一生懸命我が子のケア等していくが、加齢等でそれが難しくなると本人の思いはバサッと切るしかなくなる</p> <p>⑧これらは本人が医療、医療的ケアが必要であるほど際立っていく</p> <p>⑨特に年齢が小さい場合、地域に「安心できる材料」が少なく、N I C U等から在宅に戻る家族の不安は極めて大きいが、そこに届く支援は極めて少ない（相談28）</p>	在宅重症心身障がい児・者の支援体制の構築

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての見解	結果	カテゴリ
<p>だれ 誰が なに 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、○○部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 7 の見解と同じ</p>		<p>主：支援技術・障害特性 副：身体と知的の重複障害</p>